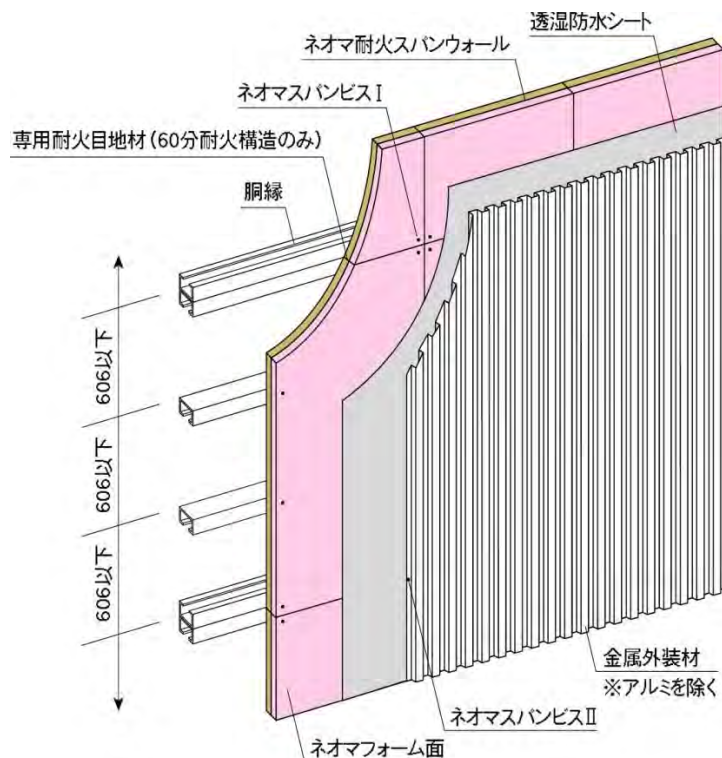


金属外装用下地高断熱・耐火複合パネル

# ネオマ耐火スパンウォール<sup>®</sup>

## 施工マニュアル



施工前に必ず本書をご一読下さい。

2013年3月

旭化成建材株式会社

断熱材事業部

## — 目 次 —

1. 本書のご使用にあたって .....	1
2. 安全に関する注意 .....	1
3. 施工手順 .....	2
4. 製品の仕様 .....	5
5. 副資材リスト .....	6
取扱い注意事項 .....	7
免責事項 .....	8

## 1. 本書のご使用にあたって

本施工マニュアルは、建築設計事務所および建築施工会社において、「ネオマ耐火スパンウォール」の施工・管理に必要な標準施工の方法が示されています。事前に本書をよくお読みの上、正しくご使用下さい。なお、商品改良のため、仕様は予告なく変更することがありますのでご了承下さい。

本書の内容についてのお問合せは、弊社または代理店にお尋ね下さい。

※本商品に関する設計事項（耐火認定仕様等）は、本施工マニュアルに記載していないものもありますので、必ず「ネオマ耐火スパンウォール」カタログも併せてご覧下さい。

## 2. 安全に関する注意

本マニュアルの中で特に注意していただきたい事項については、各項目ごとに下記の表示をしています。



：このマークは設計上および安全上注意していただきたい箇所に表示してあります。



**注意**：取扱いを誤った場合に人が損傷を負うか、または物的損害が発生する危険な状態が生じることが想定される場合に表示してあります。



**警告**：取扱いを誤った場合に人が死亡または重傷を負う危険が生じることが想定される場合に表示してあります。

### 3. 施工手順

#### (1) 下地胴縁の確認

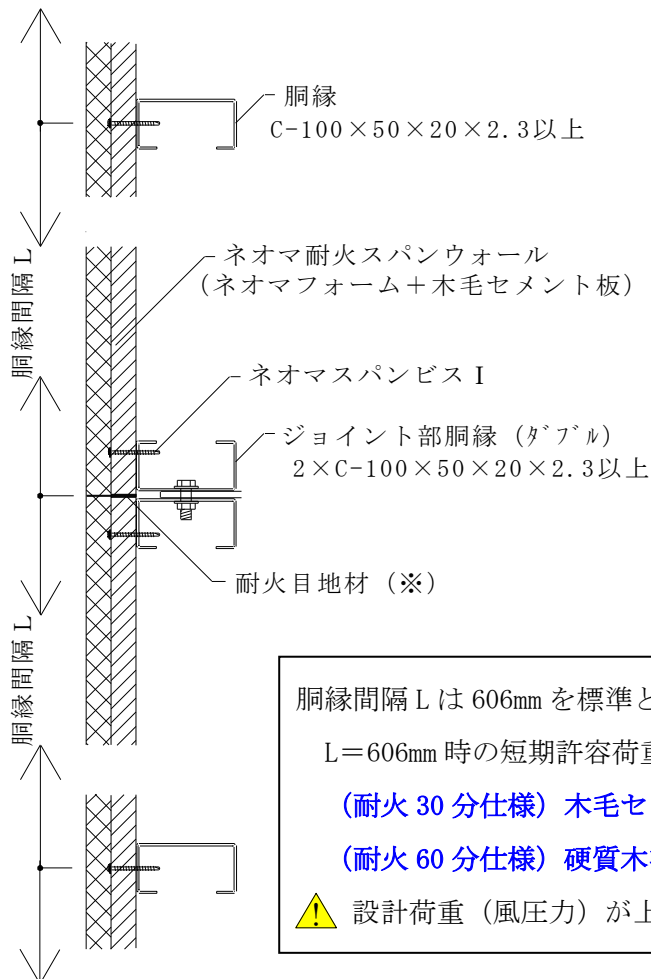
- ・ 取付け下地となる胴縁が図面通りに設けられているか確認します。
  - ⚠ 上下のジョイント(横目地部)はつなぎ材等を用いて必ずダブルで胴縁を設けて下さい。
- ・ 胴縁面に取付けの支障となる不陸等がないか確認します。
  - ⚠ 支障となる不陸等が発生した場合は、すみやかに改善下さい。

#### (2) 墨出し

- ・ 割付の基準となる水平および鉛直方向の墨出しを行ないます。

#### (3) ネオマ耐火スパンウォールの取付け

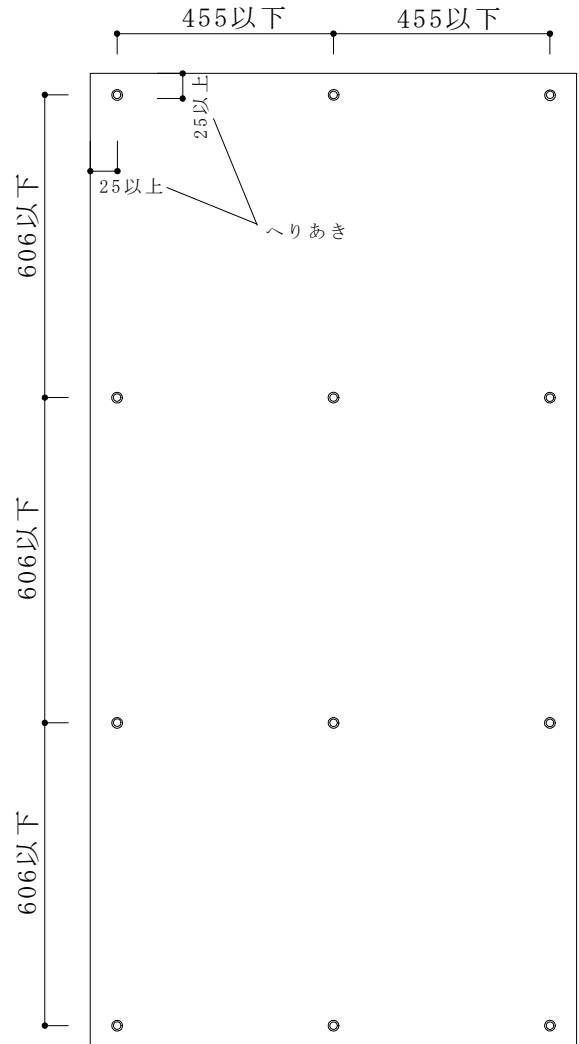
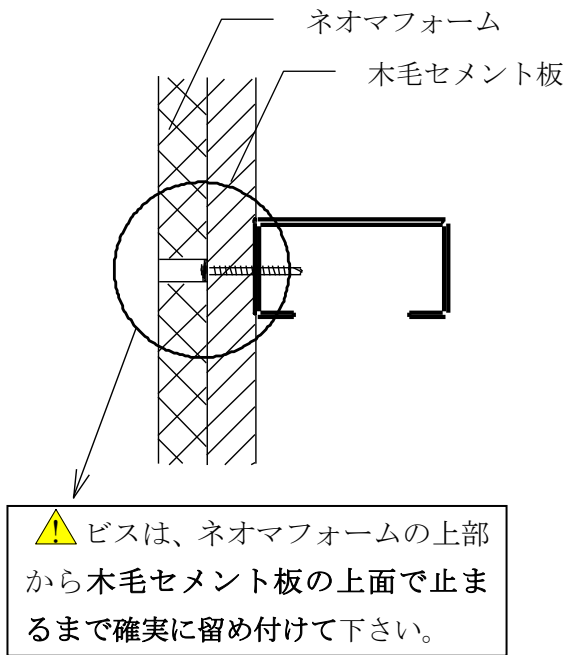
- ・ 割付墨に従い、ネオマ耐火スパンウォールを指定取付けビス(ネオマスパンビス I (P6 参照))で胴縁に取付けます。



- ⚠ ※耐火 60 分仕様は、硬質木毛セメント板側の縦ジョイント部・横ジョイント部両方に指定の耐火目地材 (カットシート G (P6 参照)) を充填して下さい。

⚠ ビスの留付け間隔は、高さ方向：606mm 以下、幅方向：455mm 以下とします。また、ビスの端部からのへりあきは、長さ・幅両方向とも 25mm 以上確保して下さい。

(参考) 胴縁間隔が 606mm の場合、  
ネオマ耐火スパンウォールの標準サイズ  
(910mm×1820mm) の最小留付け箇所数は  
12 箇所となります。



ビスの留付け間隔参考図

#### (4) 透湿防水シートの貼付け

・ネオマ耐火スパンウォールの室外側に透湿防水シートを以下のいずれかの方法で貼付けます。

①両面剥離紙付き粘着テープ

⚠ テープの材質はアクリル系のものを使用して下さい。ブチル系およびゴムアス系のものは十分な接着強度が確保されない場合がありますので使用しないで下さい。

②透湿防水シート用スプレーのり

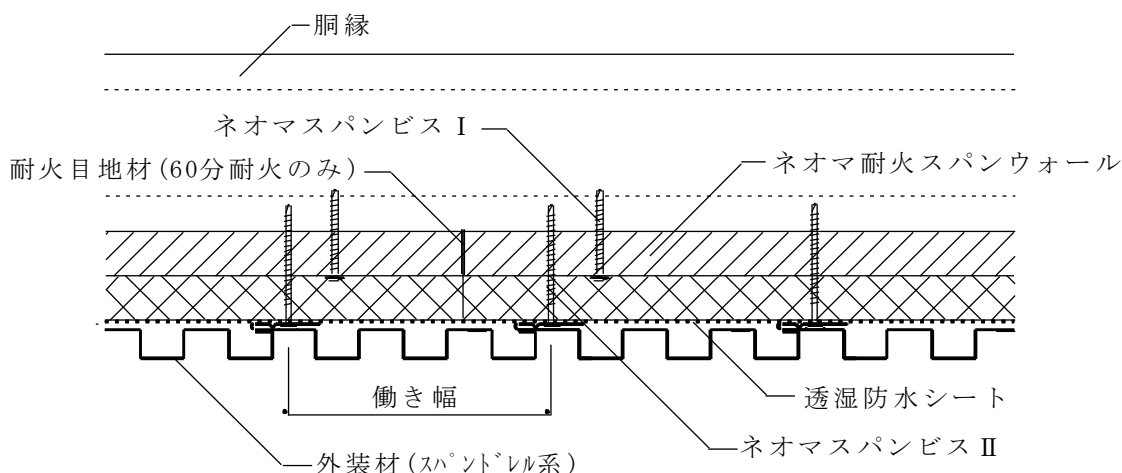
⚠ 施工に当たっては、メーカーの施工要領に従って下さい。

## (5) 外装材の取付け

外装材がスパンドレルで働き幅の小さいものは①、角波鋼板等働き幅の大きいものは②に従って取付けます。

### ①スパンドレルの場合（働き幅 100～200mm 程度。嵌合部でビスが隠れるもの）

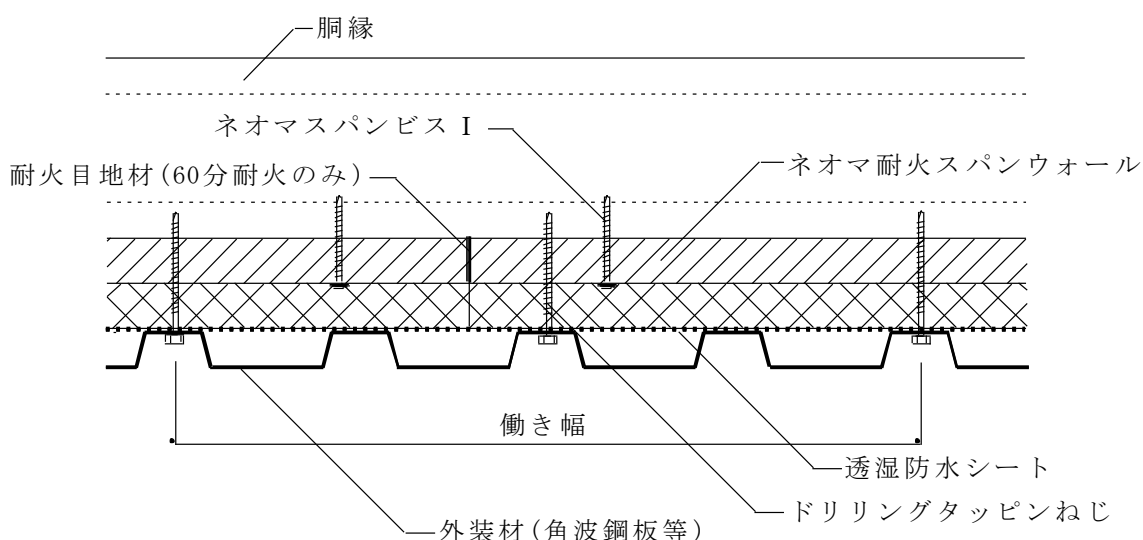
- ・外装材を指定取付けビス（**ネオマスパンビス II** (P6 参照)）で胴縁に取付けます。



⚠ ビスの留付け間隔は、高さ方向：606mm 以下、幅方向：外装材の働き幅毎 とします。

### ②角波鋼板等の場合（一般的に働き幅 600mm 以上。ビスが表面に露出するもの）

- ・外装材を市販のドリリングタッピンねじで胴縁に取付けます。

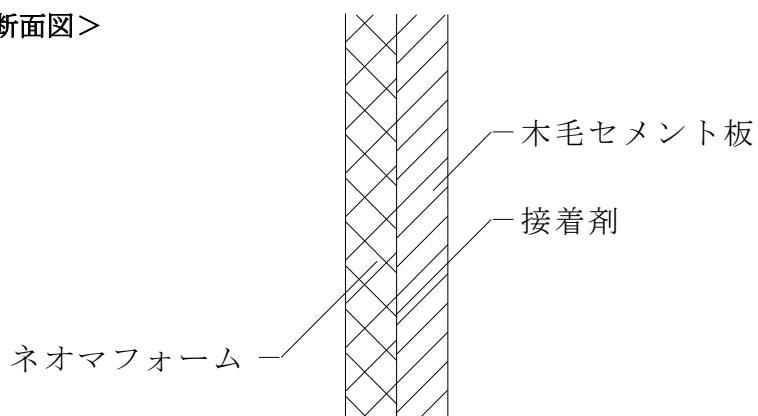


⚠ ビスの留付け間隔は、高さ方向：606mm 以下、幅方向：外装材の働き幅当たり 3 本以上※とします。

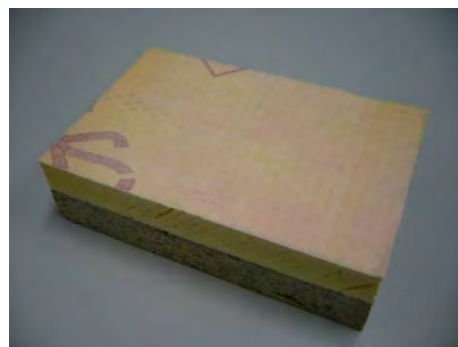
※外装材同士の重なり部分を含んだ本数とする。

#### 4. 製品の仕様

<ネオマ耐火スパンウォールの断面図>



室内側（木毛セメント板）



室外側（ネオマフォーム）

<標準製品規格>

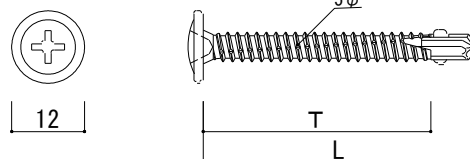
製品仕様	パネル品番	パネルサイズ* (mm)	厚さ(mm)		重量 (kg/m <sup>2</sup> )	
			総厚	ネオマフォーム		
30分 耐火 構造	ネオマフォーム + 木毛セメント板(20mm)	20M-20	910×1820	40	20	18.5
		20M-25		45	25	18.7
		20M-30		50	30	18.8
60分 耐火 構造	ネオマフォーム + 硬質木毛セメント板(25mm)	25M-20	910×1820	45	20	25.5
		25M-25		50	25	25.7
		25M-30		55	30	25.8

## 5. 副資材リスト

### (1) 指定取付けビス (ネオマスパンビス I)

<ネオマ耐火スパンウォール取付け用>

材質：SWCH22A、表面処理：ジオメット処理

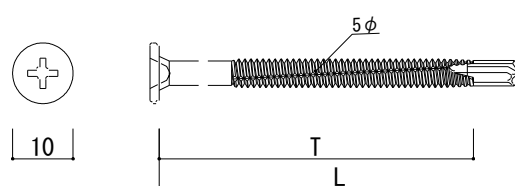


品種	L (mm)	T (mm)	適用
5×45	45	37.5	耐火 30 分仕様パネル
5×55	55	47.5	耐火 60 分仕様パネル

### (2) 指定取付けビス (ネオマスパンビス II)

<外装スパンドレル取付け用>

材質：SWCH22A、表面処理：ジオメット処理



⚠ 外装材がスパンドレル系の場合は必ず  
ご使用下さい。

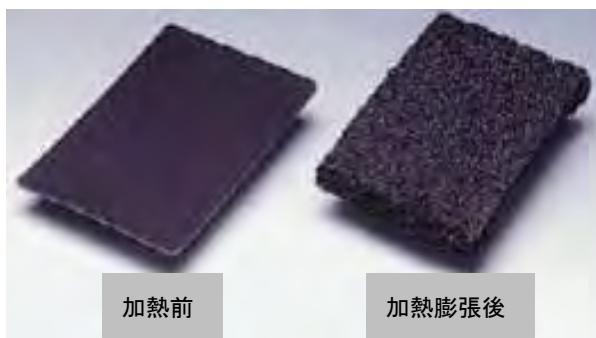
品種	L (mm)	T (mm)	適用
5×65	65	57	20M-20、20M-25、25M-20
5×85	85	77	20M-30 25M-25、25M-30

### (3) 耐火目地材 (カットシート G)

材質：耐熱繊維+グラファイト

規格：1.5mm(厚)×25mm(幅)×20m(長さ)

⚠ 60 分耐火が要求される場合は必ず  
目地部に充填して下さい。







## 注意 取扱い注意事項

ご使用にあたっては下記の点にご注意下さい。

### ①使用環境に関する注意

- ・常時、水分に接するような使用は避けて下さい。
- ・常時高温（100℃以上）で使用した場合は、熱伝導率等の物性の低下をきたします。

### ②保管・運搬時に関する注意

- ・保管には直射日光のあたる場所、水分の接する場所は避けて下さい。
- ・保管は養生シート等で覆い、ロープ掛け等の飛散防止処置を行って下さい。
- ・鋭角な器物との衝突や角当ては、損傷の原因になりますので避けて下さい。

### ③施工時、作業時の注意

- ・局部荷重や衝撃により割れることがありますので、上に載ったり重量物を載せたりすることは避けて下さい。
- ・強風下での施工は風にあおられやすいので行わないで下さい。

### ④粉塵注意

- ・切断時には粉塵が発生しますので、切断器具には粉塵吸引装置を設け、また作業者は正規の作業服を着用の上、防塵マスク、防護メガネ等の使用をお願い致します。
- ・狭い場所で多量の切断作業を行う場合は、十分な外気の導入を行い粉塵量を低下させて下さい。
- ・ネオマフォームの粉塵には健康上の有害性は認められていませんが、目に入った場合はこすらないで流水で洗浄して下さい。また吸引した場合は、うがい等を行い粉塵を洗い出して下さい。

### ⑤火気注意

- ・輸送・保管・施工にあたっては、火気にご注意下さい。  
(ネオマフォーム基材の制限酸素指数：28 以上)
- ・ネオマフォームを燃やした際、アンモニア臭が発生しますが人体に有害なレベルの量ではありません。

### ⑥変色注意

- ・ネオマフォームは紫外線にあると変色しますので、施工後はすみやかに仕上げ等を行って下さい。但し、変色による性能低下は認められてません。

### ⑦廃棄時の注意

- ・ネオマ耐火スパンウォールは「管理型」として「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づき許可を受けた業者で適正な処分を行なって下さい。(ネオマフォームのみの場合は、安定型として埋め立てまたは焼却処分できます。)
- ・圧縮・粉砕等を行う場合は、フォーム内部の炭化水素ガスが放出されますので、閉空間での作業は避け、十分な通風を確保した上で行って下さい。

### ⑧その他

- ・ネオマフォームは他の材料と同様、白アリ等の昆虫及び動物によって損傷を受けることがあります。栄養源や餌にはなりません。
- ・FP060NE-0184（60分耐火）については高比重の木毛セメント板を使用しています。

## 免責事項

- ①本マニュアルに記載した取扱注意事項が行われず発生した不具合
- ②設計者、施工業者等使用者の指示した仕様・施工方法に起因する不具合
- ③設計者、施工業者等使用者から支給された材料・部品に起因する不具合
- ④施工業者による施工、取扱いに起因する不具合
- ⑤建物の構造・下地の変形・老朽化や外部からの衝突等、弊社の製品以外の外的要因により発生した不具合
- ⑥使用者もしくは第三者の故意または過失による不具合
- ⑦引き渡し後、構造・性能・仕様等の改変を行い、これに起因する不具合
- ⑧瑕疵を発見後すみやかに届けがされなかった場合
- ⑨開発・製造・販売時に通常予想される環境等の条件下以外における使用・保管・輸送等に起因する不具合
- ⑩地震・台風等の天災、火災等の特殊要因が原因により発生した不具合

旭化成建材株式会社 [<http://www.asahikasei-kenzai.com/>]

本 社	〒101-8101 東京都千代田区神田神保町 1-105 (神保町三井ビルディング)	TEL:03-3296-3531、FAX:03-3296-3535
札 幌	〒060-0002 札幌市中央区北二条西 1 丁目 1 (マルイト札幌ビル)	TEL:011-261-5550、FAX:011-221-2371
仙 台	〒980-0811 仙台市青葉区一番町 3-1-1 (仙台ファーストタワー)	TEL:022-223-8171、FAX:022-211-9526
名古屋	〒460-0003 名古屋市中区錦 1-11-11 (名古屋インターシティ)	TEL:052-212-2251、FAX:052-212-2257
大 阪	〒530-8205 大阪市北区中之島 3-3-23 (中之島ダイビル)	TEL:06-7636-3838、FAX:06-7636-3828
福 岡	〒810-0012 福岡市中央区白金 1-20-3 (紙与薬院ビル)	TEL:092-526-2107、FAX:092-526-2492

ネオマ耐火スパンウォール施工マニュアル 第4版第1刷 2013年3月作成